

おぢかこうみんかんだより

第170号 令和2年9月7日発行

おぢか山学校「ペットボトルロケット教室」開催

8月5日（水）と8月28日（金）に「ペットボトルロケット教室」を開催しました。5日は、山本公民館長が講師となって、たのすぐクラブで開催し、29名の子ども達が参加しました。

午前中は、ペットボトルを2本使いロケットを制作しました。ハサミで力いっぱいにペットボトルを切っていましたが、意外に硬かったり、部品どうしがうまく組み合わなかったりと苦労していました。完成したときには、お互いに見せ合って「どのくらい飛ぶかな」とか「1番遠くに飛ばしたい」など言い合って、実際に飛ばすのを楽しみにしていました。

午後のロケット飛ばし大会では、1人2回飛ばしました。飛ばすときには、空気を入れることに苦労していましたが、飛んだ時には、「高く飛んだ！」とか「なんで曲がって飛ぶの？」とか「～さん遠く飛んだけど何mだったの」など言っていました。最高飛距離は、広場の柵を越えて藪の中に入っていたことで計測ができませんでした。



28日は、参加者4名で総合体育館にて開催しました。当日、雨が降りロケットを飛ばすことは難しいと思われましたが、制作が終わるころに小雨となり飛ばし大会まで行うことができました。

制作では、山学校アドバイザーや指導者からの説明・アドバイスを真剣に聞いていたり、好きな絵や自分の名前などをかいだりして、納得のいくペットボトルロケットが完成しました。

ロケット飛ばし大会は、体育館前の駐車場で行いました。いつ飛びかわからぬゴム栓の発射台に少し怖がっていたり、力いっぱいに空気を入れたりしていました。飛ばした時には「のびろ～！」とか「あ～、短かった」など言い合って、お互いに競い合いながら楽しそうにしていました。今回の最高飛距離は51mという結果になりました。



～図書館からのご案内～

第2回

浦 幸一郎 氏

origami

折り紙作品展

■展示期間:

令和2年 9月 5日（土）から
10月 4日（日）まで

■開館時間: 10:00～18:00

■会場所: 小値賀町立図書館

■作品制作: 浦 幸一郎 氏
浦 いせ子 氏

浦 幸一郎 氏《折り紙作品展》のご案内

ちかまる君の創作折り紙や四季折々を表現した作品、立体作品など約200点を展示します。

日本の伝統文化の一つである折り紙の世界を、この機会に堪能されてみませんか？

「Divertimento こんぱ～によ」の人形展を開催しました！

今回で3回目の人形展ですが、毎回新しい人形たちが仲間入りしています。羽生結弦選手の新作も4体登場しました。ポーズもすべて違っており、衣装も本物により近づけるため、布を染めたり、とても小さなスパンコールを付けたりして、細かい部分まで再現されました。

コロナ対策のマスク装着の結弦君は、人形展終了後も図書館にお借りしています♪

今回見逃された方は、次回の開催をお楽しみに！

今年度初開催！！ ★おはなし会★

新型コロナ感染症対策により、昨年度末から開催を見合させていた「おはなし会」を、8月2日に開催しました。

今年度の「おはなし会」は、三密を避けるため、年齢別で二回に分けて開催しました。開催時間を開館前の9時30分から、場所をカウンター前の閲覧コーナーに変更して行われた今回の「おはなし会」。今までと違った雰囲気でゆったりとおはなしの時間を楽しんでいたようです。

遊遊句抄

8月【兼題】立秋（りっしゅう）、木槿（むくげ）、天の川（あまのがわ）

今日の秋母は縁先鼻眼鏡	秋たつや妻は何處へカップ麺	華頭マド響く木魚や今朝の秋	天の川一人寄り添うシリエット	今朝の秋日の出の位置が移りつつ	秋立つや野辺草花の朝湿り	東空お山の澄めり今朝の秋	秋立つやもうそろそろか辞世の句	点と線銀河鉄道設計図	立秋や遺影の友のいい笑顔	召され人あの人この人銀河濃し	立秋や遺影の友のいい笑顔	銀河越へ二人は今年も逢へるやら
百笑	増円	晴れ願う雨の銀河に逢えぬ恋	君逝きし朝に咲きおり花木槿	彦星が渡し舟まつ天の川	まなづら 眼裏に三本坂の木槿垣	東空お山の澄めり今朝の秋	がたろ視た爺やんのはなし	銀漢や五島の人と郷に自慢	召され人あの人この人銀河濃し	立秋や遺影の友のいい笑顔	法名にかはりし夫や天の川	玉石を包む一景花木槿
利石	一穂	華頭マド響く木魚や今朝の秋	天の川一人寄り添うシリエット	彦星が渡し舟まつ天の川	まなづら 眼裏に三本坂の木槿垣	東空お山の澄めり今朝の秋	がたろ視た爺やんのはなし	里道の日差し最中や白木槿	立秋や遺影の友のいい笑顔	召され人あの人この人銀河濃し	立秋や遺影の友のいい笑顔	銀河越へ二人は今年も逢へるやら
月歩	値賀助	天の川一人寄り添うシリエット	天の川一人寄り添うシリエット	彦星が渡し舟まつ天の川	まなづら 眼裏に三本坂の木槿垣	東空お山の澄めり今朝の秋	がたろ視た爺やんのはなし	銀漢や五島の人と郷に自慢	召され人あの人この人銀河濃し	立秋や遺影の友のいい笑顔	法名にかはりし夫や天の川	玉石を包む一景花木槿
虫砂男	紫紅	彦星が渡し舟まつ天の川	彦星が渡し舟まつ天の川	彦星が渡し舟まつ天の川	まなづら 眼裏に三本坂の木槿垣	東空お山の澄めり今朝の秋	がたろ視た爺やんのはなし	里道の日差し最中や白木槿	立秋や遺影の友のいい笑顔	召され人あの人この人銀河濃し	立秋や遺影の友のいい笑顔	銀河越へ二人は今年も逢へるやら
香松	松月											

連載

うまうしかばい!わが小値賀

賢明さんが懸命に語る小値賀の旧所名所ばなし

第13話 小値賀諸島のキリシタン史③

1797年(寛政9)、五島藩と大村藩との間で百姓移住の協定が締結したのを機に、外海地方に暮らした潜伏キリシタンたちは五島列島の島々へと渡ります。「五島へ五島へ皆行きたがる。」

(略)この唄が歌われたのはこの時期です。間もなくして野崎島にも外海地方から直接、あるいは五島列島を経由して潜伏キリシタンが入植します。最初は野首地区への数世帯の入植でしたが、地縁血縁を頼りに次々と増え、集落が形成されました。舟森地区は3名のキリシタンから始まりますが、その後の状況は野首地区と同じです。両地区に入植した潜伏キリシタンは皆、沖ノ神嶋神社の氏子となっていましたことが過去の調査からわかっています。神社を拝みつつ、集落内にキリシタンの暦を管理する帳方や洗礼を授ける水方という指導者を置き、密かにキリシタン信仰を継承しました。

指導者の屋敷では役人や野崎集落の住人に見つからぬよう、キリシタンの信仰に基づく様々な行事が行われました。野首集落は野崎集落からの道が良く見える場所、舟森集落は小値賀からの船が着く海岸が見渡せる場所に屋敷が建てられたのはそのためです。このようにして信仰を維持しながら、キリシタン信仰が禁じられた17世紀初頭から数えて、7代後に訪れると伝わる、カトリック教会神父との再会を待ち望んだのです。

1865年(慶應元)、ついに歴史的瞬間を迎えます。浦上地方の潜伏キリシタンと教会神父との奇跡の再会「信徒発見」が起きたのです。翌年には野首、舟森の帳方、水方も神父を訪ね、その後も役人の監視を避け、神父が居る教会との往来を続けます。両集落の人々を教会に復活させるため、指導者たちはカトリックの教理を学びはじめたのです。待望のカトリック教会への復活はすぐ目の前まで迫っていました。ところが1867年(慶應3)、両集落の人々が一人残らず捕縛され、平戸島に連行される事件が起こりました。キリシタンであることが発覚したのです。平戸島では厳しい詮議が行われました。事件のその後は、皆、棄教したため間もなく開放されたとも、信仰を捨てなかつたが故に1873年(明治6)のキリスト教の禁教が解かれまるまで、拘束されたとも伝わります。棄教したか否か。この点は現在まで定かになつていません。いずれにしても、キリスト教禁教の撤廃は両集落の潜伏キリシタンにとっては悲願そのものであり、舟森には1877年(明治10)、野首には1878年(明治11)にはじめてのカトリック教会が建立されました。

その後、1890年(明治23)、野首では2代目の教会が建立されます。これは1989年(明治22)に公布された大日本帝国憲法において、信教の自由が謳われた喜びが新しい教会建立という形で表現されたものと思われます。さらに、1908年(明治41)には野首における3代目として、鉄川與助の設計施工による、レンガ造りの教会が建立されます。現在も残る、旧野首教会です。カトリック教会への復活を果たした後、繁栄を見せた2つの集落ですが、昭和40年代、高度経済成長の煽りを受け、相次いで廃村となりました。約半世紀が経過した現在は19世紀に海を渡り移り住んだ潜伏キリシタンたちの信仰や営みを示す貴重な集落遺跡となり、訪れる人々に小値賀諸島におけるキリシタンの歴史の深さを伝えています。(文責:教育委員会 平田賢明)



水方屋敷跡(野首集落跡)



旧野首教会

海の向こうに外海地域を望む

連載

ヤマカンの四方山話(よもやまばなし45)

メグリの正体

前々号に続き、田んぼの雑草の話です。メグリの正式な名前を求めて、いろんな方に尋ねたり図書館で調べたりしました。中には、公民館まで情報を寄せてくださった方もおられます。ありがとうございました。候補に挙がったのは、クログワイ、シズイ、ウキヤガラ、サンカクイ、ミズガヤツリ、ミクリ。。メグリと共に通しているのは、どの雑草も走出枝を出してどんどん新しい株を増やし、茎の先に塊茎をつくること。(この類の雑草はとても多いのでビックリ。)

詳しい方々からの情報やメグリを除去せずに育てた結果、正体は、カヤツリグサ科のミズガヤツリだということがわかりました。(写真参照)

植物大辞典によると、沼沢や湿地、水田などに生えるやや大型の多年草。細長い地下走出枝を引き、先に小塊茎をつくる。花は秋、花序は散開し、小穂を総状に互生する。(畑の雑草、コウブシ・ハマスゲと同じ科同じ属の極めて近い種でした。)



メグリの名前の由来は・・

では、なぜミズガヤツリが小値賀ではメグリと呼ばれるのでしょうか。どなたに聞いても、答えは「わからん!」。ミズガヤツリとメグリとでは、まったく似ていません。そこで勝手に想像してみました。昔の人のカン違いと言葉の訛りが、現代の呼び名につながったのではないかと。。それでは・・始まり、はじまり。。

たぶん、こげんじゃったっちゃんかつかな、劇場

登場人物3名 百姓1(おんつあん) 百姓2(わっかし) 満久利(愛称まんくり)先生 時代は、明治の終わり頃。村のはずれの田んぼで、草取りに精出す百姓二人。

百姓1「アヨ~。きゃくたびれたばな。ちょいといこわんせー。」

百姓2「アオ~きゃなえた~~。ももたぶらと尻べたと腰の痛うしたまらん。。」

畔に腰を下ろし、休憩する二人。

百姓1「みゅ一年、みゅ一年、草取りに明け暮れち、百姓っちゃん引き合わんな。」

百姓2「おんつあん。こん草ん、名前は何ち言うとかな?」

百姓1「えええっ? なーんの知るもんな。。草はくさたい。」

百姓2「なんか名前のあろうもん。。」

百姓1「アヨッコラヨ。せからしかつよ。いらん草かじやまん草か適當につけちょけ。」

おんつあんの返答に納得いかない若者は、学校時代の恩師、満久利先生に相談することにしました。

百姓2「先生、相談に伺いました。こん草ん名前ば教えちくれんですか?」

満先生「どれどれ。よし、牧野富太郎先生の図鑑で調べてみましょう。」しばらくして

満先生「どうも、ミクリという植物のようですね。ミクリ科ミクリ属のミクリです。」

百姓2「アヨ。先生、おーきん。」名前のわかった若者は、喜び勇んで飛んで帰りました。

百姓2「おんつあん、いらん草の名前んわかったばな。ミクリっち言うとっち。。」

百姓1「なんち? ミグリ。。? そうか、いらん草にも名前のあったつか。。」

こうして小値賀の百姓たちは、毎年毎年格闘する田んぼの草に、ミクリという名があることを知ったのでした。やがて時代とともに、ミクリ→ミグリ→ミィグリ→ミエグリ→メグリ となまって変化していく、現在ではメグリという名が定着したのです。ジャンジャン!(へっぱく劇場 完) ※ホンナコツば知っちょる人んおれば、教えちょくれなー。

